

## 第7回 昭島市事務事業外部評価委員会

### 議 事 要 旨

〔日 時〕 平成26年11月20日（水）18：00～20：05

〔場 所〕 昭島市役所 3階 庁議室

〔出席者〕

#### 1 委員

和田篤彦委員長、船越洋之副委員長、出雲明子委員、竹井和子委員、村上龍男委員

#### 2 事務局

早川企画部長、灘家行政経営担当主幹、板野財政課長、進藤企画調整担当主査、滝瀬財政係長、吉野企画調整担当主任

#### 3 傍聴者 なし

〔配布資料〕

- ・第7回事務事業外部評価委員会 次第
- ・平成26年度昭島市事務事業外部評価報告書(案)【抜粋】

〔議事要旨〕

#### 1 外部評価報告書（案）について

事務局より事務事業外部評価報告書(案)についての説明、及び「はじめに」全文を朗読した。

《質疑応答》

◆事務局案の「はじめに」について、冒頭で「市民目線」での評価について触れているが、途中にも同じくだりがあり、重複している点が気になった。その個所を中心に表現だけを変えさせていただいた。

ご異論がなければ、こちらの文章を採用したい。【和田委員長】

◆下から2段落目の1行目「この結果につきましては」の後に読点を入れていただきたい。【竹井委員】

○それでは「はじめに」については和田委員長の修正案を採用し、まとめさせていただく。【事務局】

◆事業番号1 職員研修事務について【和田委員長】

○現状と今後の方向性に関する意見（全文朗読）【事務局】

◆具体的な数字での評価はここに示されているとおりで、評価にあたっての今後の方向性に関する意見について、全体のまとめということで読み上げていただいた。表現や文章のつながりのところで気に

なる点があれば、ご意見をいただきたい。なければ評価にあたってのコメントについて個別に伺いたい。【和田委員長】

(※以下、個別コメントについての意見は報告書にそのまま反映するので省略。)

◆事業番号2 商工団体補助等事業について【和田委員長】

○現状と今後の方向性に関する意見（全文朗読）【事務局】

◆ご意見があれば伺いたい。意見がなければ次に進めさせていただく。【和田委員長】

◆事業番号3 民生委員・児童委員等事務について【和田委員長】

○現状と今後の方向性に関する意見（全文朗読）【事務局】

◆下から2行目「委員が時代の要請、ニーズに応じた活動を行えるよう」とあるが、要請・ニーズの具体的な内容の一例を入れてはどうか。【和田委員長】

◆地域包括支援センターから始まる最初の記事の中で触れているので、あえて必要はないと思う。【竹井委員】

◆「社会的弱者」という用語をみる機会は減っている。「支援を必要とする人」など、別の言葉に変えてはどうか。【出雲委員】

◆確かに最近、そういった言葉を聞かなくなっている。それでは「支援を必要とする人」ということでまとめていただきたい。他に何かあれば伺いたい。なければ次に移らせていただく。【和田委員長】

◆事業番号4 学童クラブ管理運営について【和田委員長】

○現状と今後の方向性に関する意見（全文朗読）【事務局】

◆上から2行目「健全な育成を計る」のはかるはこれでよいのか。【船越副委員長】

○図という字が正しいと思われる。「図る」に修正させていただく。【事務局】

○下から3行目「帰宅児童の見守りについて」とあるが、文章のつながりから「について」を「や」に変えた方がよい。【財政課長】

◆この文章は読点が多いので「今後とも」の後と「よりよいアイデアを出しながら」の後の読点は削除した方がよい。【船越副委員長】

◆下から5行目「育成料については所得別の導入」とあるが、所得別の後にそれを受ける適切な言葉があれば、入れていただきたい。【出雲委員】

◆支払い能力に応じてという意味で、応能ということだと思う。【村上委員】

◆それではいただいたご意見をもとに事務局の方でまとめていただきたい。他になければ次に移らせていただく。【和田委員長】

◆事業番号5 地球温暖化対策事業について【和田委員長】

○現状と今後の方向性に関する意見（全文朗読）【事務局】

◆市ではISO14001への登録から独自制度に切り替えているということだが、この文面で差し障りはないのかということと、「市の内部での取組み」を行う「内部」とは市庁舎、行政内での取組という理解で良いのか。【和田委員長】

○ISO14001に取り組んでいた際は本庁舎及び水道部を対象としていたが、現在は全施設を対象としている。この個所の表現については事務局で再度検討させていただきたい。【事務局】

◆要は市として環境問題にきっちり取り組んでいるということをもっとアピールしていただきたいという意見で、それについて書いていただければ結構で、必ずしもISO14001を広めるべきという意見ではない。ISO14001については一例として挙げさせていただいた。【村上委員】

◆市内事業者に対し環境への取組みを強化してほしいというような方向にまとめてもらえればと思う。【和田委員長】

◆事業番号6 公園維持管理について【和田委員長】

○現状と今後の方向性に関する意見（全文朗読）【事務局】

◆上から3行目の「場当たりの」という言葉が引っ掛かる。担当課との議論の中から場当たりに委託しているという印象は、個人的には受けなかったが、委員の皆さんはどうお考えか。【和田委員長】

◆ネガティブな印象を与えるように思われる。【竹井委員】

◆それでは「または場当たりの」の個所の削除をお願いしたい。【出雲委員】

◆事業番号7 特別支援教育事業について【和田委員長】

○現状と今後の方向性に関する意見（全文朗読）【事務局】

◆1段落目と2段落目に「介助員・指導員」という言葉があるが、指導員については有資格者であり、専門性も問われる。介助員は教員を補佐する立場であるため、順番を入れ替え、指導員を先に持ってきた方が良く思われる。最終段落の冒頭に「支援教育」から始まる文章があるが、特別を入れていただきたい。【竹井委員】

◆2段落目の文章を読んで「バラツキが生じる可能性がある。」とあるが、昭島市内の学校ごとにバラツキがあると言っているのか、それとも区市町村間での格差、バラツキのことを言っているのか、読み進んでいくと後者だと分かるが、どちらとも取れるので、もっと分かりやすい表現があれば変えたい。【和田委員長】

◆自分のコメントの中でバラツキという言葉を使っているが、自分としては東京都全体でみると市ごとにバラツキが出るという意味で使っている。【村上委員】

◆「処遇が市の裁量で行われるため」の「市」を「市ごと」に替えてはどうか。【竹井委員】

◆「児童・生徒数によっては」と「教育体制や質にバラツキが生じる」の間に「各市の」を入れ、「可能性がある。」を「可能性があり、」にしてそのあとの文章を繋げて一つの文章にしてはどうか。【村上委員】

◆人事管理については具体的に、人件費も、人事権も都が持つべきだということなのか。【出雲委員】

◆採用は現場に応じて市が、処遇・人件費は都が持つてほしいという意味で発言した。市ごとに処遇の面でバラツキがあれば、指導員・介助員の方々のモラル・倫理面で問題が出てくる可能性があるからである。個人的な意見としてコメント欄に記載させていただいたが、それを集約するにあたっては、適切な個所だけ反映していただければと思う。【村上委員】

◆事業番号8 市立会館管理運営について【和田委員長】

○現状と今後の方向性に関する意見（全文朗読）【事務局】

◆下から3行目「行政が会館管理の主体となること」とあるが、「会館管理の主体」ではなく「会館運営の主体」の方が表現として適切である。他にご意見があれば伺いたい。

報告書の内容については委員の皆さんにご確認いただき、一部事務局にゆだねた個所については、取りまとめをお願いする。それでは次第に従い進めさせていただく。【和田委員長】

## 2 外部評価全体を通して（今後の課題）

◆評価を実施してお気づきの点や、次年度に向けての取組みなどについて、この機会にご意見をいただきたい。はじめに事務局から何かあれば伺いたい。【和田委員長】

○この外部評価については来年度も実施予定であり、現在予算計上中である。ただ来年度は実施5年目にあたり、見直しを検討する時期が来ている。来年度を終えて一区切り、一旦休みをいただく考えでいる。そのかわりに何らかの方法で市民から意見をいただく必要はあると思うので、それについても検討しつつ、委員会による評価も行うといった形式で来年度については進めていきたいと考えている。これが現在のところの市としての考え方である。【事務局】

◆これまでの経過から、今後の課題として挙げさせていただいた意見についても、行政側で受け止め、対応いただいていることから、この外部評価がただ形式的に行われているのではないということを実感でき、こちらとしても真面目に取り組まなければならないと感じた。ただ、このような機会を委員だけではなく、もっと多くの市民の方に体験していただき、市側の対応を実感していただけるような、もっと上手い方法はないかと考えている。市民の関心はいま一つ低いように思われるが、市民に体験してもらい、市民の意見をすくい上げられるような仕組みを考えていただきたいと思った。【村上委員】

◆当初は市の事業についての知識はないが、自分たちの税金がどのように使われているか懐疑的な思いを抱き、市と一般市民という対立する構図を思い描いていた。実際にやってみると市の取組や職員の取組みの様子も分かってきて、説明いただく中で理解を深めることもできた。どんなことをどのように要求するのが妥当なのかを考えられるような、そういう視点を持つこともできるようになった。もっと続ければもっと分かるようになるのかなと考えている。一市民として中身を見つめながら関わっていければと思う。良い経験をさせていただき、感謝申し上げる。【竹井委員】

◆学童クラブについて、コスト面、有効性共に考えて努力されていることに感銘を受けた。保育所関連の事業も同じように進められていると推測され、昭島の良いところだと感じている。その一方で施設の運営について、青少年交流センター、勤労商工市民センター、そして今回の市立会館の評価を行ってきたが、施設運営に課題があると感じた。老朽化も控え、緊急に取り組むべき課題があると感じている。そういった面で進んでいる分野と遅れている分野があるという認識でいる。外部評価のやり方についてだが、厚木市の場合は毎年やり方を変えて実施している。今年はインターネット中継を行った。どちらが良いということではないが、少しずつでもやり方を変えてみてはどうだろうか。どうすれば良くなるのか、委員側も刺激を受けるという観点から試行を続けていくのも方法だと思っている。市庁舎の会議室を会場としたり量販店の上の公共施設を会場とするなど、場所を変えて常に人がいるところでやってみたり、あるいは市民公募50人参加で行うなど、少しずつ変化させることによって何が影響を与えるかが分かってくると思われる。【出雲委員】

◆市がいろいろな事業を行っていることは分かったが、一般の人がこの報告書を見て分かるのかという疑問はある。説明シートも分かりにくく、事前の説明を聞いても分からない点があった。誰が見ても分かるような形にすれば、もっと多くの参加者があるのではないかとされる。この委員会の目的が市の財政とリンクしているので、現在の昭島市の財政状況についての説明が必要だと思った。事業説明の中では、事業に対しての真摯な取り組みは伝わってくるが、コスト意識が低いという印象も受けた。【船越副委員長】

◆1点目、この外部評価のやり方がマンネリ化してきた感がある。時間的制約もあったため、個人的に担当職員の背後にある現場を知らなければならぬと考え、学童クラブの現状を教えてもらうために指導員に話を聞きに行ったり、市立会館の管理員や民生委員とも現状把握のための意見交換を行った。そのことによって説明員の説明が良く分かるところもあれば、もうちょっと担当職員に現状を把握してほしいと思ったこともある。前は対象事業の関連施設を見学したりしたが、現場で働いている方との意見交換があっても良いのではないかと感じた。そういったことからマンネリ化を打破していくような取り組みも必要であると思う。この委員会の目的は評価を通じて事業の見直しを行い、それを予算に反映させることであるとともに、事業担当職員の内部に向きがちな視線を、外部に向かせることであると思っている。常に市民の目線で考えられる市職員であってほしいという思いがある。事業の選択についても当初は予算規模の大きい事業を選択していた。財政状況とのリンクという観点からはそれも意味があることだと思うが、今回はそれについてあまり重視せずに事業の選定にあたった。総じてマンネリ化の傾向にあると考えている。

2点目、事務事業の内容が細分化されているのに対し、委員の意見はそれを超えて出てくる。例えば商工団体補助等事業について、内容としては商工会への補助、くじら祭への補助等をする事業であるが、これ以外にも市から商工団体への補助は複数あるため、その中のひとつを取り上げて評価している状況であり、もっとまとめた形で商工団体に対してどういう働きかけをしていくのかという意見・質問が、委員の中からどうしても出てしまう。それに対して職員の方は応えようとするが、その担当事業の範囲外のことでジレンマに陥っているように思える。委員の意見は理解できるが、その事業ではそこまで関与できないため、「商工会への外部監査が必要」という委員会の見解にも、この商工団体補助等事業の中で対応していくには限界があり、今後、評価を継続していくのであれば見直しが必要であると考え。また、相手先、補助金を交付される側の商工会はどう考えているのか。それを明確にし、把握したうえで評価する必要があるのではないかと考えている。そうすると事務事業からかさ上げして、それをまとめ上げる施策の段階で評価ということも、今後は必要になってくるのかもしれない。

3点目、過去に外部評価の対象となった事業について、委員会からの意見と担当課の対応をまとめた「外部評価対象事業の今後の対応について」だが、委員会としてこのままにしておいて良いのかという思いがある。中を読んでいくと委員会からの要望に対し、回答がなされていない事業もある。例えばシルバー人材センターは外部監査が必要であると委員会として意見をまとめているが、担当課はそのことに一切触れていない。理由があるのかもしれないが分からない。そういった事業が1割程度ある。事務局としてはこういった形で報告書をまとめており、委員会だけが読むだけで終わっている。これで良いのだろうか。先程事務局から再来年度以降は別の方策をとるかもしれないというお話があったが、それでもこういうことが起こりうるのではないかと考えている。

4 点目、今年は職員の傍聴が多かった。庁内の掲示板に掲載していただいたその効果の現れであると思う。委員会の目的である市民視線を職員に伝えることができ、それと同時にやりがいもいただいた。それについては感謝申し上げる。以上である。【和田委員長】

◆マンネリ化について意見として申し上げる。マンネリ化してきたという感じは自分としても持っている。財政状況の説明がなかったという意見もあったが、この委員会は縦割리の中でできているのだと考えている。財政状況についてはそれについて検討する委員会、別の仕組みがあって、この委員会ではこれについて考える、というカテゴリーがあるのだと自分としては受け止めている。和田委員長の発言にあったように、狭い範疇ではなく大きくとらえなければ分らない、ということもあるとは思いますが、たとえトータライズされた形で情報を与えられても、一市民では対応しきれなくなるのではないか。その観点から、我々委員がどの範囲で評価を行わなければいけないかを理解しておく必要があり、この委員会ではこれをやるという形式でやらざるを得ず、それを要するには予算もなければならぬ。その中でこの委員会をもっと実りあるものにするためには職員の方々と一緒に考えていかねばならないと感じた。この委員会の目的として、一市民の目が大事なんだということを職員の方に分かってもらいたいなら、一般市民の方の考え方や意見を反映していくための仕組みを考えなければならぬ。出雲委員の発言の中でインターネット中継の話があったが、傍聴者は発言できないが、評価の現場をネット上に公開し、中継を見ている一般市民からネット上で意見をいただくことで、委員以外の方の考え方や意見も反映していくというのも方法であると思う。もっと情報を提示してといった場合に、提供された膨大な情報に応じられる委員、一市民はあまりいない。応じきれなければ何のための委員会なのか訳が分からなくなる。だから一般市民の考え方や意見を反映していくための仕組みがあればいいのではないかと考えている。【村上委員】

◆選定した事業についてほとんど分かっていないにもかかわらず、短期間で質問を考えなければならぬのがとても大変だった。資料提供を受け、現場の職員の方と意見交換をするなどの猶予があった後に職員から説明を受け、その後に質問できればもっと中身が濃いものになるのではないかと感じた。短期間で行われると消化しきれず不十分感が残る。あらかじめ事業について分かっていないと適切な質問はできず、大変である。【竹井委員】

○貴重なご意見を賜り、感謝申し上げます。今後の市としての考え方の捕捉をさせていただく。平成 23 年から 32 年までの 10 年計画である第五次総合基本計画が来年度に中間年を迎えるにあたり、市の執行側としての総合的な検証を行っていく考えである。そこで課題を洗い出し、後期の 5 年間に街づくりをどう進めるのが良いのかを検証することを議会に対して約束もしている。検証という中では行政だけの見直しではなく、総合基本計画は市民と行政の共通の目標という位置づけであるので、より広範な市民の意見を取り入れていく。具体的にはワークショップなど、策定の際もそうだったが中間検証も市民参加の手法を取り入れていく考えである。検証については政策、施策、事務事業とあるが、総合基本計画は 55 の政策指標を持っており、その検証へ取組んでいくということから事務事業評価について、再来年度以降はお休みをいただきたいと考えている。もともとこの制度を取り入れようとした背景には、平成 13 年度に行政評価導入し、シンクタンクの力を借りて施策評価の試行もしたが、自治体が執行側と議会との 2 元代表制で構成されている中、首長側としての自らの見直しを図るという取組の中で事務事業評価を取り入れたという経過がある。PDCA サイクルの仕組みを改めて構築することも大事だが、結果としては職員の意識改革が伸びたのではないかと自負している。その自らの

見直しだけではなく、内部で自己評価をすることについて市民目線・納税者目線からの意見をいただきたいといったことから委員会を立ち上げたつもりである。そういったことからこれまで真摯なご議論を賜り、一定の結果は出ているのではないかと感じている。今後もコスト意識の更なる徹底、市民への財政状況の分かりやすい公表の仕方等、を課題とする一方で、公会計制度改革などを並行して行うことで、より高い意識改革になるのではないかと考えている。公会計制度改革についても年明けに総務省から正式に要請が来ることになっており、固定資産台帳の整備から着手していくつもりである。委員からのご指摘にもあったが、当市は公共施設の取組について他市に比べ非常に遅れているのは事実である。ただ遅れていた自治体としてこの機を捉えて、他市が今までやってきたことも含めて改めて白紙から作りあげていきたいと考えている。更には組織体制についても拡充する予定でいる。そこに力を入れていかなければ公共施設をこのまま維持することは不可能という認識に立っており、長寿命化、効率化、統廃合も視野に入れて、精力的に進める考えでいる。ご意見にもあったが市立会館の扱いについて、昭島市は基地のまちとしての歴史があり、騒音は減っているが、コミュニティーの進捗とともにこの施設をどうしていくかは昭島市の中で大きな課題であり、公共施設総合管理計画を策定していくなかで議論できればと考えている。お答えになっているか分からないが現時点での市としての考え方を申し上げた。また来年度はぜひ継続してやっていただければという思いもある。そこでの運営については委員各位からご意見賜ったので、市民目線ということと、職員の人材育成、意識改革といった視点も含めて、ご支援ご指導いただきたい。来年度以降の運営については改めてご相談させていただければと思う。【企画部長】

### 3 その他

今後の日程について

○正式な報告書については本日の意見を踏まえて委員の皆さんにご確認いただいた上でまとめさせていただく。例年、もう一度お集まりいただき市長への報告の場を設けており、今回もその方向で進めさせていただく。その際に庁舎7階で懇親会も開催させていただきたい。日程については改めて事務局の方から調整させていただきたい。【事務局】

◆以上で第7回委員会を終了する。長時間に渡りありがとうございました。【和田委員長】

～閉会～